

誰にでもできる！楽しい「音楽づくり」「鑑賞」の授業  
～子どもの心と体をフルに動かす新しい授業づくりの提案～

□平成28年7月25日（月） 於：大栄農村環境改善センター

□アドバイザー 筑波大学附属小学校 高倉弘光 教諭

音楽づくりの授業のつくり方、深め方

- 音楽科を通しての生きる力とはどのようなことか。どのような思考力・判断力を育てているのか。
- 音楽で一番大事なことは聞くこと。
- 授業にしかけを作ることが大切。活動の中に発問を入れて、子ども達に考えさせるようにする。
- 音楽の学習では、活動の中で子どもがどんな問題意識を持てばいいのかということを考えてめあてを作る。

<学習例>

- 「おちゃらかほい」（手遊び歌）をだんだん早く歌いながらじゃんけんをする。
- 「3時のおやつゲーム」おやつリーダーを一人決めて、そのリーダーが選ぶおやつと違ったものを考えた人が勝ち残っていくようにする。勝ち残った人が次のリーダーになって同じように続けていくことができる。子ども達だけでも楽しめる。8拍に合わせて子どもの好きなように打楽器を打つ人を作ると即興演奏になる。
- 「即興演奏」
  - ①まず4拍子のいろいろなリズムを学ばせる。→子どもに拍を打たせて、提示してあるどのリズムなのか選ばせる。
  - ②自由にリズムを打たせる。ここでリズムを変えてもいいし、ずっと変えなくてもいいと言うと、子どもは安心してリズムを打つことができる。
  - ③7、8種類の楽器の中から6人の子どもに一つずつ楽器を選ばせる。ここで、はじめは、入る楽器の順番を言い、リズムを重ねていくようにする。慣れてくると、即興演奏のスタートの指示だけでも、子どもたちだけで自分の楽器の入り方を考えたり、重ね方を考えたりする。
  - ④児童が慣れてくると、数人の即興演奏の終わり方も子ども同士が相談をしたり、顔を見合わせながら考えたりするようになる。
    - ・グループ学習の中で、子ども同士がリズムの教え合いをしていて、つまづいていた子を引き上げている。
    - ・教師は即興演奏のスタートを指示する。演奏を途中で止めて、「なぜ、～しようと思った

の？」と問いかけると、表現しようと考えている内容を言語化することができる。→これが言語活動となる。

### 鑑賞授業のつくり方・深め方

全国的にみて、音楽の学習におけるそれぞれの活動に当てている時間の割合は次のようである。

A 表現：歌唱40%、器楽30%、音楽づくり10%

B 鑑賞：鑑賞20%

○鑑賞では「教材曲と1人1人をどう関わらせるか」を考えて授業をつくるのが大切である。その内容は「速さ」「音色」「音階」「反復」「問いと答え」等があり、取り組む教材の中で、どんなねらいを持って指導をするかを明確にしてから授業づくりをすることが大切である。

○鑑賞の授業では曲の良さやおもしろさを感じさせること。この曲は楽しいと思う方法を考えて何度も聞かせて曲を味わい、感じたことを引き出すことが、言語活動につながる。授業が終わった時に子どもがメロディーを口ずさむことができるといい。

<学習例> 教師の発問はT：で書く。

○「かくれんぼ」 T：「最後に「もういいよ。」と答えた声小さくなったのはどうして？」

○「中国のおどり」 T：「楽器で聞いたり答えたりしているんだよ。分かるかな？」

・例えば、聴こえてくる楽器を児童に学習させ、「バイオリン」「フルート」など、その楽器の音が聴こえたら立って演奏するようにしながら鑑賞する。

○「カリンカ」

・曲に合わせて大きく指揮をさせる。

・板書では、鑑賞教材の構造を視覚的に示すことで児童の思考を深める手立てになる。

A（速い） → B（ゆっくり） → A（速い）

○「幸せなら手をたたこう」

T：「幸せなら手をたたこう♪」の後になぜ、2回手をたたいたの？

T：「合いの手とは、フレーズとフレーズの間に調子よく入っている音だよ。」と説明する。

○「剣の舞」

・合いの手が入ることを聞き取らせる。分からない子どもがいたら、学習のチャンスと捉える。

### まとめ

◎心や体で感じる部分と頭で考えて言葉にしている部分の両方を行き来するのが良い授業だと教えていただいた。また、具体的な発問を通して、子どもたちが考えていることを言語化する方法が分かったので、日々の実践の中に早速取り入れていきたい。